



33 山崎朝雲

《少女置物》

一点

明治三十三年（一九〇〇）

ブロンズ、鑄造

一八・〇×二七・〇×六三・〇

山崎朝雲は第五回内国博に「木彫海岸の子供」を出品し、二等賞を受賞し、宮内省買上となった。本作と同様、子供をモデルにした作品であったが、このとき朝雲は三児の父で、明治三十年代には子供を題材とした作品をいくつか作っている。ところが、二十年代までの彫刻は、肖像以外は動物や仏像、あるいは古代人物をあつかったものが多く、日本の風俗に興味をもつ外国人の土産物として需要のあつた牙彫くらいしか、子供の作品はなかつた。感情表現がわかりやすく、つねに表情豊かな子供は、人間の内面心理をどのように造形としてあらわすかに苦慮していた彫刻家にとって、格好の題材だったのでろう。もともと木彫家として出発した朝雲は、他の彫刻家と結成した亜等会や三三会で塑造の研究をしており、この時期に積極的に石膏像や塑像を発表した。本作は明治三十三年の日本美術協会春季展覧会に「鑄銅少女図置物」として出品され、二等賞銀牌を受賞した。

山崎朝雲（一八六七～一九五四）は福岡県博多の代々陶工をいとなむ家に生まれた。小学校卒業後、地元 of 博多人形師や仏師のもとで修行し、第三回内国博には《木彫仏像》を出品している。第四回内国博では、本名の山崎春吉名義で「木彫養老孝子置物」を出品し（出品者は池田清助）、妙技三等賞を受賞した。明治二十九年に上京し、高村光雲に師事、以後、彫刻界の重鎮として多くの弟子を育て、自らも積極的に作品発表を行なった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections